

白馬だより

鈴木 均

最近、単独行の遭難がやけに目立っている気がする。6月に入ってから長野県内だけでも、3日北穂高岳、6日空木岳、7日蝶ヶ岳、そして今朝（16日）の朝刊では小蓮華山と戸隠山。この春は残雪が未だに多く、6月2日には北アルプスの2000m以上では降雪があり、4日に針ノ木に登ったときにはきれいな新雪が5～10センチも積もっていた。戸隠は、いわゆる蟻の戸渡りで転落したようだが、ここ数年のテレビ（関東キー局では関西以上に山関係の番組が多い）や新しい山関係雑誌の影響ではないかと思うのだが、まだ必ずしも経験があるわけでもない単独の登山者が雪などでは結構その人のレベルでは高いのではないかと思える山行があるのではないかと危惧する。上記の遭難は、パーティであればたとえ事故になっていても救助される可能性があったのではないかと推測できるものが多い。

空木ではなぜ避難小屋の中で亡くなっていたのか、蝶ではなぜ間違っって雪の蝶沢に入り滑落したのか。（過去にも同じ場所での遭難があった）小蓮華山では山スキーヤーが山スキーヤーの遺体を発見したという。

昨日の信毎では、北アルプス北部遭対協が出動費用を明文化することも報道されている。夏季は3万円冬季は4万円など、あと上乗せ項目がいくつもある。大町市長が新会長になり497万円の予算も決めた。また、行政や山岳関係者等で作る県山岳環境連絡会は、土砂が流出するなど登山道300カ所を危険箇所としていたが、昨年度までに93カ所の修復を終え、本年度は50カ所の修復を目標とする異などを決めたと報道している。

白馬大雪渓は、昨年の雪不足でシーズン途中からクローズになったが、今シーズンは問題ないようだ。山は、環境と自然保護の大事なテーマであるが、別の見方からすれば観光資源でもある。山や自然とともにある村や県は、都会とはまた違う課題もあるのだ。

ところで、白馬の代掻き馬雪形は多くの方がご存じだが、白馬周辺には子馬の雪形もあり、種まき婆さん・爺さんもある。代掻き馬の雪形は巨大だし、わかりやすいが、子馬などの雪形はおそらく説明を受けないとわからないのではないだろうか。なお、子馬の右（天狗原の下）に大きなカモシカ（鶏という説もある）の雪形もある。代掻き馬の雪形が出れば、文字通りお百姓さんたちは代掻きをはじめ、少し遅れて子馬の雪形が出ると田植えの時期が近づいたというそうだ。山は登って楽しむが、こういう山の文化にも触れることで山のおもしろさがいっそう増すのではないだろうか。

（写真は、6月6日：八方ゴンドラの乗り場付近から撮影）

蛇足 6月に入って、甲信越も梅雨入り宣言されたが、雨はほとんど降らず気温も低い。そのため風は冷たく感じる。八方池は未だに8割程度が雪で隠れている。この夏の天候はどうなるのだろうか。 6/16 記

